

京丹後市夢まち創り大学**大手前大学 今福ゼミナール
「古代の紫染色再現実験イベント」の開催について**

令和6年8月5日

京丹後市

本市では、京丹後市夢まち創り大学事業として、参画大学と連携し市内各地域で大学生の地域活動の取組を支援しています。

参画大学の一つ、大手前大学 建築&芸術学部 今福ゼミナールでは、平成 29 年度より市内の織物事業所協力のもと、丹後ちりめんの研修やインターンシップに継続して取り組んでおり、その一環として昨年度に引き続き8月24日に「子ども大学染色教室」と「紫根染め再現実験」を開催し、紫根染め 2 力年計画の最終年にあたる今年は、子どもたちと一緒に公開染色実験を行います。

平安時代の文献「延喜式」の調査では、古代の丹後国で生産された絹地を使用し最も高貴な紫が染められた可能性があることがわかりました。この企画では絹の産地であった丹後で織られた絹を使用し古代紫の染色再現実験を行います。

◆ 子ども大学染色教室 最も高貴な色「紫」を古代の方法で染色実験

<日 時> 令和6年8月24日（土）13時～16時

<場 所> アグリセンター大宮

（京都府京丹後市大宮町口大野 228-1）

<内 容> むらさき草の根（紫根）、丹後産の絹を使用し公開染色実験。
大手前大学の考古学と染色工芸の2つの異なる分野の教員の共同研究の成果に基づいて、子どもたちと一緒に染色再現実験を実施。今年度はいよいよ紫根による染色を行います。

※詳細についてはイベントチラシを参照ください。

<主 催> 大手前大学

<協 力> 京丹後市夢まち創り大学

<後 援> 京丹後市教育委員会

わくわく / こ だい がく 子ども大学

せんしよく
染色
ぎょうしつ
教室

こだい むらさきせんしよくじっけん
古代の紫染色実験



もっと こうき いろ むらさき こだい ほうほう せんしよく せんしよくぎょうしつ
最も高貴な色「紫」を古代の方法で染色する染色教室

※子どもたちと一緒に、古代の紫に使用された貴重な染料、日本産の「紫根」を使用し、
今回のために古代の文献をもとに丹後で織られた生地を染めます。

日時

2024年 8月 24日(土)
13:00~16:00

場所

〒629-2501 京都府京丹後市大宮町口大野 228-1
アグリセンター大宮
「調理加工実習室」「地域活性化研修室 AB (和室)」

持ち物

上履きとゴム手袋、エプロンをご用意ください。

お申込み



申し込みフォーム QRコード
参加希望の方はこちらのQRコードよりお申し込みください。
定員になり次第申し込みフォームを閉じるため、QRコードでのアクセスができなくなります。

定員30名
参加費無料

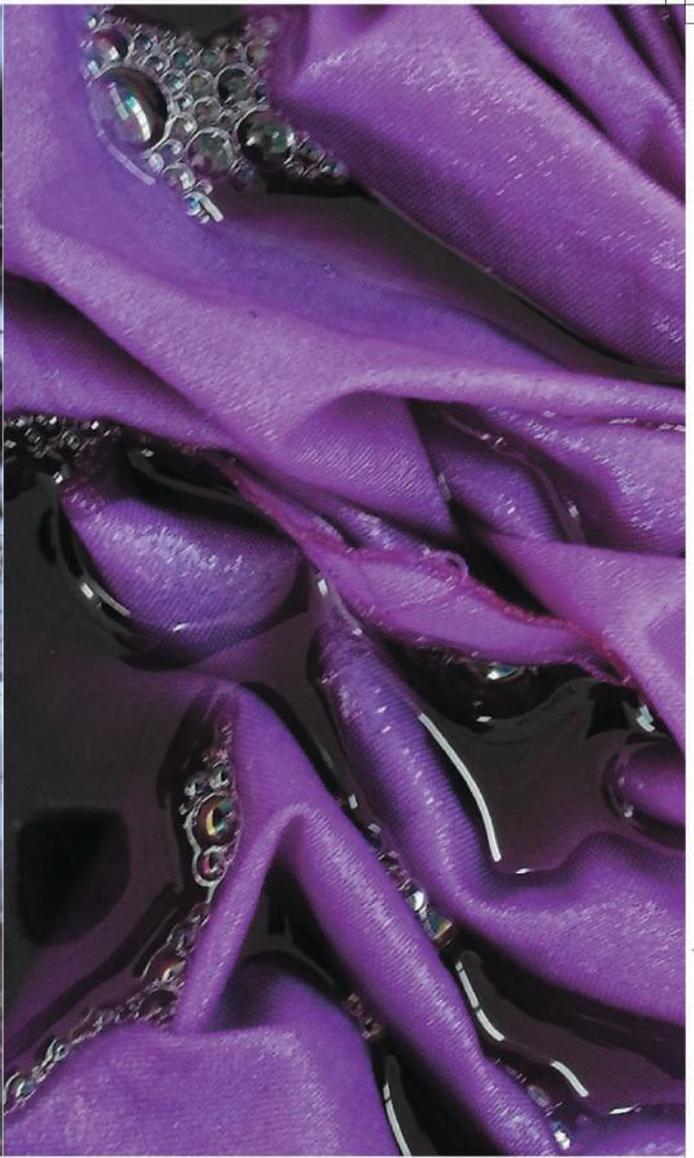
主催

大手前大学

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42
<http://www.otemae.ac.jp/>

協力
後援

京丹後市 夢まち創り大学
京丹後市教育委員会



STYLING PHOTO

古代の紫

染色再現実験 in 京丹後

古代日本の染色品の中でも紫根を用いた染色品は、再現が最も困難な色です。中でも濃紫は冠位十二階でも知られるように最も高貴な色として扱われていました。平安時代の文献を調べると、古代丹後国の絹地を使用して、最も高貴な紫が染められた可能性がありました。この企画では、古代より絹の産地であった丹後で織られた絹を使用し、丹後にて古代の紫染色再現プロジェクトです。

平安時代の文献「延喜式」に

丹後国から絹織物貢納の記述

平安時代の文献「延喜式」の中には、天皇の御服や賞賜用衣服の縫製・組紐類などを管轄する中務省所属の縫殿寮の項目に、古代の紫の染色に関する記述があります。また、「延喜式の主計寮(当年の調・庸、その他の貢納分を計算し来年の収支の予算をたてる役所)」には丹後国から毎年白生地が貢納されていたことがわかります。

丹後国(調、両面五疋、二窠の綾五疋、三窠の綾五疋、七窠の綾、菴薇の綾各三疋、小鸚鵡の綾一疋、白絹五疋、緋の帛・縹の帛各二十疋。余白は絹・綿を輸せ。)

大手前大学染色工芸ゼミでは、「古代の紫染色再現実験 in 京丹後」をテーマに、古代の技法で最も高貴な色と言われている紫を、原産種の絶滅危惧種のむらさき草の根(紫根)を使用して、昨年より2力かけて丹後の絹で公開染色実験を行います。

今回の実験は、古代に最も高貴な色とされたムラサキを、大手前大学の考古学と染色工芸という二つの異なる分野の共同研究の成果に基づいて実施します。